

5. 観覧料 常設展入館料（大人 300 円、高校生・大学生 200 円）
 ※中学生以下、障がい者手帳など持参者（介護者 1 名を含む）、
 大阪市内在住の 65 歳以上の方は無料（要証明）。30 人以上の団体
 割引あり。
6. 主 催 大阪市立自然史博物館、新潟大学教育学部

■主な展示品・見どころ

1. 生きている標本のタネ

標本庫に眠る標本のタネは生きているものが多く含まれることが分かってきました。どんな種類のタネがどのくらい長く生きているのでしょうか？最新の研究成果を紹介します。



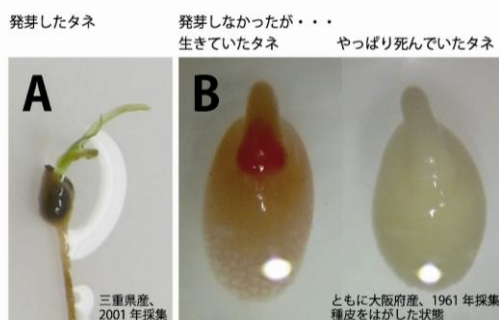
画像 1：タネの生存が確認された最も古いヒメヒゴタイの標本（大阪府産 1925 年採集）。ヒメヒゴタイは大阪府では既に絶滅。



画像 2：標本のタネを蒔いて発芽したホシクサ。

2. 絶滅危惧種の標本のタネも生きている！

大阪では絶滅したと考えられているカワツルモの古い標本のタネも生きていることが確認されました。保管されている標本から絶滅した地域個体群の再生が可能となるかもしれません。



画像 3：カワツルモの生きていたタネ。発芽したカワツルモの標本のタネ（A）と、発芽しなかったけれど生存が確認されたタネ（B 左）と死亡したタネ（B 右）。呼吸系酵素のはたらきがみられる部分が試薬によって赤く染まっている。

3. タネを用いた植物の保全

特定の種類の植物が失われてしまった場合に備えて、希少種や農作物の品種を中心にタネを保存する取り組みが世界各地で行われています。展示ではこのような事業や最近の研究例を紹介します。



画像4：兵庫県立人と自然の博物館のシードバンク事業（写真提供：兵庫県立人と自然の博物館）。



画像5：絶滅が危惧されているスズサイコ。標本のタネから芽生えた株には、元の野生集団からは失われた遺伝的特徴を持つものも（中浜直之氏撮影）。

4. 植物標本の作り方

植物標本を作るなんていうと、ちょっと難しく感じるかもしれませんが、コツを覚えれば簡単に綺麗な押し葉標本を作ることができます。展示では植物標本の作り方についてやさしく解説します。

※画像3は、志賀 隆, 2013「博物館の生態学(22) 自然史標本を取り巻く管理者・採集者・利用者の関係—よりよい標本の保存・収集・利用を行っていくために—」日本生態学会誌 63: 375 - 383 の図を許可を得て改変したものの。

今回の展示には、文部科学省科学研究助成金（課題番号23701024、26350387）の支援を受けて行った研究成果の一部を使用しています。



■広報および広報用画像に関する問い合わせ

大阪市立自然史博物館 総務課(広報担当) 山上

TEL : 06-6697-6222

FAX : 06-6697-6225

MAIL : k-yamagami@ocmo.jp